

平成30年度 連携・協力事業の実施状況について

教員養成専門部会

【プロジェクト名】発達障害と心身症・不登校への支援に強い教員の養成—①

1 プロジェクトの目的・概要

本事業は、平成28年度まで行われた「発達障害と心身症・不登校への支援に強い教員の養成」の休止にともない、本年度より内容・形態を変えて実施することとなった。

現在の小・中学校及び高等学校（以下、通常学校）では、少子化の中でありながら、特別支援学級・通級指導教室に通う子どもは増え続け、それを担当する教員（特別支援教育担当教員）も増加している。そこで、本事業では、この特別支援教育担当教員の力量、つまり特別支援教育の専門性を向上させることを目指し、研修を行うこととした。

この研修プログラムでは、教師自身による「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」を通して、「自律的・主体的に学び続ける教師」の育成を目指す。この研修プログラムによって特別支援教育担当教員が専門性を身につけ、「チーム学校」等に示されるような開かれた学校において、学校内の専門家として発達障害を含む教育的ニーズを要する子どもへの教育力を発揮することが期待できる。

2 30年度の実施状況

- 1) 対象：小・中・義務教育学校・高等学校の特別支援学級担任及び通級指導教室担当の教員
I～IVの各セッションより希望の回を選択して参加（登録20名）
- 2) 会場：佐賀大学クリエイティブラーニングセンター ICT教育クラスルーム
- 3) 研修日時及び内容等

セッション (参加人数)	日時	テーマ	研修のねらい	事前学習使用教材
I (11)	2018年 11月14日(水) 18:00～20:00	子どもの理解 (アセスメント)	効果的な指導につながるための子ども理解のポイントを知る	(特総研web) 基礎編1102 検査の意義とアセスメント -アセスメントの目的と意義-
II (15)	2018年 11月28日(水) 18:00～20:00	子どもの指導 (自立活動)	効果的な指導につながるための自立活動について知る	(特総研web) 基礎編0004 (3)学習指導要領と教育課程 の編成及び配慮事項
III (10)	2018年 12月12日(水) 18:00～20:00	子どもの支援 (指導の実際)	効果的な指導を行うための教材・教具を選択することができる	(特総研 支援教材ポータル) ・本サイトから、教材や事例を検索してみる
IV (14)	2019年 1月16日(水) 18:00～20:00	子どもを支える (連携)	子どもや保護者との信頼関係につながる姿勢や方法を知る	(特総研web) 専門編0004 特別支援教育におけるカウンセリング技法

3 今後の予定

平成30年度は初年度であったため、研修は佐賀大学（教職大学院本庄キャンパス）で行った（平成31年1月現在）。今後、教職大学院の各サテライトキャンパス（唐津・武雄・鳥栖）において、研修を実施していく予定である。

平成30年度 連携・協力事業の実施状況について

教員養成専門部会

【プロジェクト名】発達障害と心身症・不登校への支援に強い教員の養成—②

1 プロジェクトの目的・概要

平成29年度末に作成された、佐賀県公立学校の養護教諭、養護助教諭、養護主幹教諭としての資質の向上に関する指標で、健康相談やコミュニケーションの資質・能力が挙げられたことに鑑み、養護教諭等の教育相談力向上を目的とした新たなプロジェクトを立ち上げた。

講義と事例検討会から構成され、実施時間は1回2時間である。毎回、教育場面でも広く援用されている家族療法のいくつかのキーワードについて理解を深める講義と、家族療法に依拠した事例検討を行った。検討する事例は、発達障害のある子供との関わりや、心身症・不登校への支援についてなど、保護者との連携も含め、幅広い。

今年度は3回の実施を予定しており、それぞれ実施の約1ヶ月前から参加者を募集することにしている。いずれも場所は佐賀県教育センターである。

2 30年度の実施状況

予定している3回のうち、1月30日現在、1回の実施をしたところである。

第1回は、小学校の養護教諭6名、中学校の養護教諭1名、特別支援学校の養護教諭1名、教育センタースタッフ4名と佐賀大学教員1名の計13名の参加であった。

講義では、家族療法の考え方の特徴と問題観、変化観について採り上げた。また事例検討会では、別室登校の小学生の事例について、家族療法の立場から検討を行った。

		前半	後半
1	平成30年10月27日	家族療法の特徴と問題観、変化観	事例検討会
2	平成31年2月2日(予定)	孤独の理解と外在化技法	事例検討会
3	平成31年3月16日(予定)	解決志向のアプローチ	事例検討会

課題については、新規プロジェクトということもあり、実施しながら整理しようとしている段階である。準備の進め方や当日の進行、1回の時間、年間実施回数など、検討中である。

3 今後の予定

今年度は教員養成専門部会の事業に位置づけられていたが、大幅な見直しを経て、次年度は「養護教諭等教育相談力向上研修プログラム(案)」として教員研修専門部会の一事業に位置づけたい。

現在、年間実施回数は増やすことを想定している。